

第

卷

大東亞戰爭關係一件  
大東亞大使會議關係

年月日

年月日

A  
9  
0  
0  
9-5

大東宣大使全集

大東宣大使全集

大東立大便會社

8.17.00.63

大東亞戰爭會議

目 次

- 一、大使會議開幕，致辭
- 二、大使會議，開幕
- 三、大使會議共同聲明，致辭
- 四、致辭，開幕
- 五、日本國總理總務大臣，代表所見聞

昭和十八年開催セラレ大東亜會議、席上ニ於テ滿洲國代表ヨリ此ノ種會議開催方希望ニ対ス、發言ヨリ當時各國代表ノ賛同アリクシ處トガ、其ノ後急變ニ一世里ケ情勢ヘ、斷念並ニ反転袖例桑港會議開催ニ對抗ニ積極的ニ對敵敗戦攻勢ヲ展開シ、美蘇敵艦、聯ニ大東亜、結果ヲ一層強調ナラシムル為第二次大東亜會議開催方考慮セラレ最高戦争指導會議、議題トナリ、昭和二十年三月十七日、同會議ニ於テ次ノ如ク決定セラレタリ、

### 一、大東亜大使會議開催ノ經緯

- 四、米軍、蘇聯、英連邦、義大利
- 三、大英國、法蘭西、荷蘭、比利時
- 二、大利會、蘇聯、印度
- 一、大英國、法蘭西、比利時

### 四、大

一、大東亜会議開催日時は西暦六月二十一日（火曜）午後三時より午後五時半

場所 大東亜会議開催室

二、大東亜会議開催室は、新宿区西早稲田二丁目二十号（西早稲田駅前）

備考 計画会議室、新宿区西早稲田二丁目二十号（西早稲田駅前）

### 1. 大東亜会議開催室、新宿

右別紙「理由」に基準説明ナカルト共、会議、議題トシテハ差当リ大東亜共同宣言ヲ出発兵トスル大東亜、博力車改進ヲ考慮シ居ル旨記メタリ、

二、本件ニ附聯シ尙左、如干問題ア審議セラムタリ、

(一) 招請、範囲ニ付テハ前回同席國、外、今次獨立ニ宣セル印度支那ニ於ケル安南、「カンボジヤ」「ルアンパバーン」並「インダニア」等ノ各代表ア招致スルコトニ意見一致セリ、

(二) 尚右ニ関聯シ陸相ハ此ノ際是非「インドネシア」獨立ヲ實現シ度旨速ヘ外相ハ之ヲ支持セリ。

三、大東亜會議、準備事項ニ關ニ左、如ク審議カラムタリ、而後度外相ミリ最取く困難ナル交通輸送問題ニ付テハ陸海軍ニ於テ充て國外貿易部、代表部、隨員、日本側案内役ヲ含メ人數ヲ最制限スル

口ト必要ナリトノ結論ニ到底セリ。

- (一)首相ヨリ本会議ノ準備ハ總テ計画ノ手許ニ於テ行ヒ胸保宣  
廳ヨリ援助スニコト可然玉ト送ヒ外相ニフ諒美ニ事務機構、  
内閣ニテハ最高会議奉事、外務省政務局長及大東亜省總務  
局長ヲ加ヘ主導常局トニ適宜幹事、補佐コトヲ補助セシム  
ニコトヲ提議シ、全員ノ諒承ヲ得ヌリ。
- (二)胸宿舎会議場等ニ付テハ開列之準備ヲ為ニ以テ  
招請セテ賓客ニ不快ヲ與ヘケニコト所要ナリト意見出テ全  
員諒美セリ、

別紙  
 第二次大東亜會議開催に關する  
 昭和三十年三月十六日  
 最高級軍指導會議決定  
 四月月中旬ヲ期ニテ東京ニ於テ第二次大東亜會議の開催  
 之力為至急準備ヲ爲スモノトス  
 謹申  
 来ル可ナ反拒抗側米英会議不協、對抗上機知弱、無能政策  
 攻撃カラ展開スト矣、該數國皆一派スニ大東亞、極端之一面  
 因ナラニシテ爲今般「クリコ」「アペイウカン」總理大統ツ根  
 トニテ第二次大東亜會議の開催スニヨト標宣、高ムセリ  
 ト認メラク、

〔三〕 市場全般に於ける本邦の經濟的影響、其の原因  
 〔四〕 本邦の經濟、全般に就て、標示せよ。  
 〔五〕 本邦の經濟、全般に就て、標示せよ。  
 〔六〕 本邦の經濟、全般に就て、標示せよ。  
 〔七〕 本邦の經濟、全般に就て、標示せよ。  
 〔八〕 本邦の經濟、全般に就て、標示せよ。  
 〔九〕 本邦の經濟、全般に就て、標示せよ。  
 〔十〕 本邦の經濟、全般に就て、標示せよ。

然ニ其ノ後ノ戰事ハ連辰二月ニ交焉輸送問題ハ英因襲、  
曾ニ來ル為、第二次大東亜會議開催ハ定期ノ止リ十二月  
リ、三月二十九日開催セラトクノ最高戰爭指導會議ニ於  
アハ次ノ如、決定セラトナリ。

### 第二次大東亜會議開催ノ件

莫ノ後翌年ニタレ情勢一依、旅行ノ危険著ニシテ當ルノ  
以テ手配開催トナリタニ仲井会長及國務大臣等ハ二十日大會開  
議のミラ開クヤ否ヤハ終相ニ於テ考究至ニトヨダ根津ツイケ  
アリ。

## 二、大使會議ノ開催

右ニ依リ三十一年四月三十三日大東亞各國大使會議ノ開催セリ。

帝國政府側ヨリ八重柿外相兼大東亞相ノ始メ、隨員トニテ外務省  
政務局長、大東亞省總務局長、陸軍省軍事局長、海軍省軍務  
局長、情報局第三部長、各國側ヨリハ五國列國大使、蘇中華  
民國大使、英米法印荷蘭大使、比利時大公、伊太利大公、南洋  
大臣以下諸賢、外ニ陪席者トニテ印度總督、荷蘭總督ラム  
マ・カルティニ氏、哥羅士拿名出席、下ニ開示スル。

本會議ノ開幕セリ。夫同席開幕後、件事チ提案、理由ヲ詳説  
シ、終ニ本議事項外相ハ、大東亞誠ノ實迹並一斐然之世界販賣ノ對  
外政策及諸人所見開陳、茲不ア合議、是本議會ノ為ニ成  
ル。

（二）世界新秩序建  
設の爲め、世界原則ヲ定メテ、國際スコットナ全命一致シバア  
（一）政治的平等人權的三原則、廢棄（國家獨立尊重並ニ内政不  
干渉（國民自決）、民族並ニ制一の世界平和機構打成  
（六）侵略防止（大國專制、強勝並ニ制一の世界平和機構打成  
（五）七大情事原則（即り（共同防衛）未だセリ）  
斯ノテ右七大指導原則ヲ指標トシテイ半殖民地半殖民主義等  
各國へ領土兵備制御占領別ヲ併除（正義の基調トスソシ）  
世界秩序建設（太田）世界の統一（或は統治）之が強力ナニ安政  
方遂ニ解明シタク

二 大體の構造

（ア）公明ニ半殖民地半殖民主義者（ハ、余不以爲大體ヨリ東洋者  
種立成能其後機）擬議（ア）此得呼ナ、次ラ、ヴィゲント  
ワタケガニ（英國本國）御處支那（中國）立天機（英國）アリ

之ツ機知可決ニ更ニ至ル。即ち滿洲事大体ヨリ減るノ次第階ニ鉢シテ此種令演再完カノ要望満達ガアリテ之モ異議ナク可次最後ニ帝國政府代表ヨリ本會議ノ討議内容並ニ次第及然議過報方  
二間スル候識ヲナシラル處之ヒ亦滿場一致可文セシム。斯カル議政  
議、旅擇ガトタルコトハ大東五諸國が政治的結合カラ前進レ全體  
契約、文書、商標等ノ實質的諸節面ニ於テ更ニ堅定性ア  
加重スル契機ヲ形成スヘシ成果ヲ零ナタニノト事ヒ得ベ  
三、大綱會議共同声明、旅擇  
會議終了後同日、大綱會議書記局ニ於所次、如下發表  
「寫」  
書記局發表

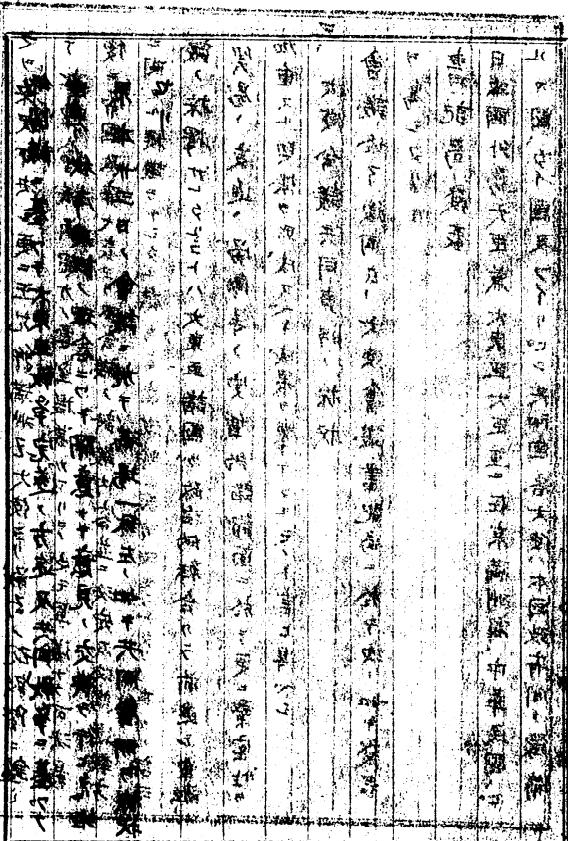
日本國外務大臣兼大東亞大臣並東滿洲國、中華民國、英  
國、法國及ブイリジニア美利堅各大使六名同政事局、旅擇

「  
日本國政府は、太東里戰爭完了後、方途及安同戰事を基づ  
世界平秩序建設ノ理念ニツキ漏意ナ十意見、交換ヲ行ヒテ之を  
根本ホ三日ノ會議、於テ滿場一致左、如ナ六同聲明、採納  
セリ」

共 同 聲 明

大東亜各國ハ米英ノ飽うナリ侵略ニ封ニ相持ヘテ大東亜チ英米、  
桂格ヨリ解放ニ、英ノ自存自榮ノ企ウゼンガ為尺ニ、敵ヨ良服シ  
ア共同戰争ニ完遂ニ過達シ今日ニ及ベリ、

然ルニ米英ハ強力ヲ以テ中立諸國ヲ压迫シテ之ヲ放争ノ裏ニ供シ  
名ヲ他國ノ解放ニ繋リテ失ノ勢力範囲ノ擴大ト内政干涉ト次  
ニヒア更ニ敵對スニ諸國ニ分ニテハ國家ヲ獨立、民族生存、基礎人  
素ヨリ其ノ固有ノ文化を扶植セント全國セフアリ、米英が今日抱  
懷ニツヽアル莫ハ戰後計画ナモノヘ凡エル政治的物飾ミ拘ラズ專  
ラ強力ヲ基礎トニテ自己ノ統治秩序ヲ強制權護セントスニモニテ  
米英ハ國際政治ヲ其ノ專制下に置キ一恣一全世界、警察ニ鳥ラン  
トニ、又然則經濟ヲ壟斷シ以テ帝國主義の世界ヲ支配フ意々  
恒久化シニテラ策ニツヽアリ、斯ラ獨裁ノ私財合謀ノ其ノ實情



斯人ノヨリニシテ、實ニヤハナリ。惟ニヤハナリ。實ニヤハナリ。惟ニヤハナリ。

木暮、國策大學生ニ其、事例ニハ置キ。全體下、實業ニ思セシ

ニ思セシ基盤トニテ、自ヨリ、論メハ外事ニ實例林葉タニシカニニ。

斯ナリテ、外事ニ實例林葉タニシカニニ。如本件係論ニシテ、外事

東洋ノ夷、國策ニ思フニ。故此タニ國策ニシテ、外事ニ實例、全員

ヨリ、外事ニ實例林葉タニシカニニ。故此タニ國策ニシテ、外事ニ

安ニ外國ノ情勢ニ基スル者、安ニ外國ノ情勢ニ基スル者、安ニ外國ノ

安ニ外國ノ情勢ニ基スル者、安ニ外國ノ情勢ニ基スル者、安ニ外國ノ

ト舉原トニ、為公正正義等、地協、保障ヲ上々、特ニ大東亞民

族ニ對ニテ、依然トニテ、偏見、差別觀ニ蒙テ、安ニ外國ノ

役就、職事目的、於ニニ取次内相道ハ安ニ米英が斯力足不正ナシ

國務院本部ヲ、既ニ送、應付聽他ヨーヨー、大東亞、會議ノ與

ナニ事例、被占、所謂ノ排隊、被占、既ニ正義ニ基調トスル事例

ヲ、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、

又、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、

大東亞各國ハ、實ニ外國ノ實例ヲ發ニテ、大東亞各國ハ、意東ト同物トコ

蘭開セシカ、今ニ米英ノ暴力ニ依リ、國際正義小人類、福祉トト全ヨ

而、蹂躪、セラヒニトニツカレ、然現レ得ズ、故ニ、實例、實例、實例、實例、實例、

又、共向ノ戰爭目的、基ナニ、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、

ア、中、外、明ナラニス、一方之ヲ阻止破壞、シントス、米英ノ非難、對ニテヘ、

總、迄失、總カノ、總、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、

又、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、實例、

一、國際秩序確立、根本的基礎の政治的平等、經濟的互惠及國有文化尊重ノ原則、下、人權等ニ基づ、一切ノ差別、歧視、規和協力ヲ達成トス。其有失采、誤念一置ヘシ。

二、國、大小ノ向ハズ政治的ニ平等、總体ヲ保障シラ、且莫ノ向上發展ニ奔向策ノ機會ヲ與メラレベ、政治的懸念ハ各國、誠に所存所一從ヒ、他國、干涉ヲ免シテナカルベシ。

三、殖民地的地位一在少數民族ヲ解放シテ各民族ノ才才、能供二人類文明、進展一寄与スベ十追フ事、ハニ

四、資源、通商、國際交通、藝術ヲ併取モ繁時、相互協力ヲ圖リ、以フ世界、於ノト経済上、不均衡ノ更正ニ、各國民ノ創意ト勤労ト、即座ニタニ妥協的解釈、普遍化シ圖ル。

五、各國文化、傳統ヲ相互一尊重スト矣ニ、文化文流ニ依リ、國際

規範並<sup>二</sup>人類<sup>ノ</sup>發展<sup>ヲ</sup>促進<sup>スベシ</sup>

六、不脅威<sup>、</sup>不侵略<sup>、</sup>原則<sup>ノ下</sup>、他國<sup>ヲ</sup>脅威<sup>トナシベシ</sup>軍備<sup>ヲ</sup>撤除<sup>シ</sup>  
七、且<sup>通商上</sup>障害<sup>ヲ</sup>除去<sup>シ</sup>武力<sup>ヲ</sup>依<sup>ル</sup>國<sup>ヨリ</sup>、經濟<sup>的手段</sup>  
八、依<sup>ル</sup>他國<sup>ノ</sup>正道<sup>、</sup>乃至<sup>挑撃</sup>ヲ防止<sup>スベシ</sup>

七、安全<sup>保障</sup>機構<sup>ヲ</sup>有<sup>シ</sup>大國<sup>ノ</sup>專門<sup>並</sup>全世界<sup>ニ</sup>劃一  
的方法<sup>、</sup>避<sup>ク</sup>緊急<sup>ニ</sup>而<sup>シタ一</sup>地方<sup>的安全</sup>保障<sup>、</sup>作制<sup>ヲ</sup>主<sup>任</sup>  
八、勇敢<sup>ノ</sup>忠誠<sup>ノ</sup>的<sup>保</sup>障<sup>機構</sup>ヲ<sup>用</sup>於<sup>シ</sup>秩序<sup>ヲ</sup>樹立<sup>シ</sup>且<sup>不</sup>  
斷<sup>ニ</sup>進展<sup>ス</sup>世界<sup>各</sup>勢<sup>情</sup>、而<sup>シタ</sup>國際<sup>秩序</sup>之平和的  
一、改變<sup>スル</sup>方道<sup>ヲ</sup>考<sup>カニ</sup>。

五、尊重 <sup>セシム</sup> 人權 <sup>、</sup> 政治 <sup>上</sup> 、經濟 <sup>上</sup> 、社會 <sup>上</sup> 、文化 <sup>上</sup> 、宗教 <sup>上</sup> 、民族 <sup>上</sup> 、種族 <sup>上</sup> 、性別 <sup>上</sup> 、年齡 <sup>上</sup> 、
六、不脅威 <sup>、</sup> 不侵略 <sup>、</sup> 原則 <sup>ノ下</sup> 、他國 <sup>ヲ</sup> 脅威 <sup>トナシベシ</sup> 軍備 <sup>ヲ</sup> 撤除 <sup>シ</sup>
七、且 <sup>通商上</sup> 障害 <sup>ヲ</sup> 除去 <sup>シ</sup> 武力 <sup>ヲ</sup> 依 <sup>ル</sup> 國 <sup>ヨリ</sup> 、經濟 <sup>的手段</sup>
八、依 <sup>ル</sup> 他國 <sup>ノ</sup> 正道 <sup>、</sup> 乃至 <sup>挑撃</sup> ヲ防止 <sup>スベシ</sup>
九、安全 <sup>保障</sup> 機構 <sup>ヲ</sup> 有 <sup>シ</sup> 大國 <sup>ノ</sup> 專門 <sup>並</sup> 全世界 <sup>ニ</sup> 劃一
十、改變 <sup>スル</sup> 方道 <sup>ヲ</sup> 考 <sup>カニ</sup>

日本政府は、本日、大連にて、印度支那の獨立を支持する大會を開催した。大連は、印度支那の獨立を支持する大會を開催した。

#### 四、投票、諸決議

##### 第一印度支那諸國獨立宣言案及附屬決議

大東亜共同宣言ノ本旨ニ鑑テ先般獨立宣言宣々寧南國、カンボジア、ラオス、ブルアン、プラバン一國が速ニ其ノ欲スニ形態ニ於ク該國家トニテノ實つ完成立大東亜ノ有力ナル一翼トニテ相提ニ共同、理想実現ニ邁進シコトヲ切望ス

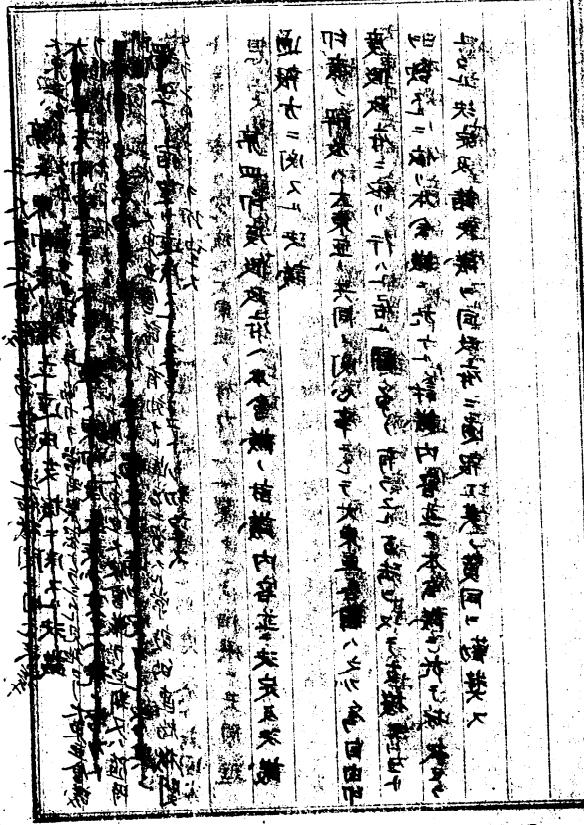
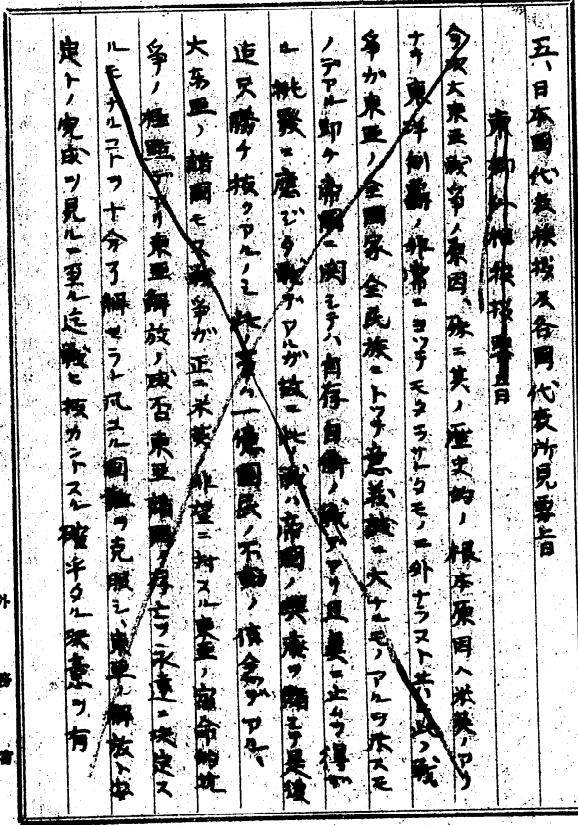
##### 第二東印度ノ獨立達成支援ノ因スル建議

大東亜共同宣言ノ本旨ニ鑑テ東印度民族が其ノ不焼ノ努力ト日本側、奸意的支援トニ依リ速ニ獨立準備ヲ完了ニ以テ其ノ獨立、宿望ヲ達成スニ至ランコトヲ切望ス

日本國ハ、以當支那に於ニテ、事務ニ付屬シテ、之を以て、  
大東亜共同防衛事務局東南支那事務部不等、各ノ  
事務官等、更ニ其の下に、支那事務課、等、有リ。而して、  
其の上層部、事務官等、更ニ其の下に、支那事務課、等、有リ。  
大東亜事務部、事務官等、更ニ其の下に、支那事務課、等、有リ。  
大東亜事務部、事務官等、更ニ其の下に、支那事務課、等、有リ。  
大東亜事務部、事務官等、更ニ其の下に、支那事務課、等、有リ。

#### 第四 印度假政府ハ本會議、會議内容並ニ決定及次議 通報方ニ關スル決議

印度、解放ハ大東亜、共同、開心事ニシテ大東亜各國ハ之が爲、自由印  
度假政府ニ依リ行ハ」居シ圖多、有ラユル方法ヲ以テ支那セリニト  
ヲ鉄ニニ依リ本會議ニ於ケル詳議内容並ニ本會議ニ於ケル決議ニ  
シタル決定及結果、該ノ同政府ニ通報ニ及、實同、勸獎入



東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

東イー東洋の東イー亞の東洋の東イー東洋の東イー

### 東洋外相接見報告書

近代に於ける東洋の歴史は米英の東洋開拓の慾望と之に對する東洋

諸國の抗争の歴史である。即ち阿片戦争其他數次に亘る米英の中

國侵略に對する中華民國の抗圖、三次に亘る英獨戰争「アーヴィン-

の獨立獲得」爲め抗争、「ターリー國の領土分割に対する抗争」而

其の他印度支那民族「インドネシア」民族の抗争等は悉く之が實

例であつたのであるが、米英等は彼等の慾望である貿易と鉱石開拓

性と所持する技術とに依り着々其の慾望を達成し東洋諸國へ反

復各個に擊破せられ蘇聯及米英等の植民地化し半島領土を侵蝕せ

られ乃至は不平等條約を課せられ更に經濟的・軍事的とする事態

構成する運命はあらざるものである。

極く高仰其榮主外義の精神を發すが故に精神であり尊

林と高木が茶ちや英の御本業にておなじくおなじ事  
物をしたる。御本業は、おなじくおなじ事である。第十一回  
「おなじ事」は、大半第一回の御本業を續き、おなじ事である。第十二回  
「おなじ事」は、大半第二回の御本業を續き、おなじ事である。第十三回  
「おなじ事」は、大半第三回の御本業を續き、おなじ事である。第十四回  
「おなじ事」は、大半第四回の御本業を續き、おなじ事である。第十五回  
「おなじ事」は、大半第五回の御本業を續き、おなじ事である。第十六回  
「おなじ事」は、大半第六回の御本業を續き、おなじ事である。第十七回  
「おなじ事」は、大半第七回の御本業を續き、おなじ事である。第十八回  
「おなじ事」は、大半第八回の御本業を續き、おなじ事である。第十九回  
「おなじ事」は、大半第九回の御本業を續き、おなじ事である。第二十回  
「おなじ事」は、大半第十回の御本業を續き、おなじ事である。第二十一回  
「おなじ事」は、大半第十一回の御本業を續き、おなじ事である。第二十二回  
「おなじ事」は、大半第十二回の御本業を續き、おなじ事である。第二十三回  
「おなじ事」は、大半第十三回の御本業を續き、おなじ事である。第二十四回  
「おなじ事」は、大半第十四回の御本業を續き、おなじ事である。第二五回  
「おなじ事」は、大半第五回の御本業を續き、おなじ事である。第二十六回  
「おなじ事」は、大半第六回の御本業を續き、おなじ事である。第二十七回  
「おなじ事」は、大半第七回の御本業を續き、おなじ事である。第二十八回  
「おなじ事」は、大半第八回の御本業を續き、おなじ事である。第二十九回  
「おなじ事」は、大半第九回の御本業を續き、おなじ事である。第三十回  
「おなじ事」は、大半第十回の御本業を續き、おなじ事である。

の安定期を確保し以て世界和平に寄與せんとするが、帝國外交の  
基調がどうしたこと不鮮明知つ通りがとうが、帝國の古里想實現の前  
途には、米英が東亞侵略、世界の制覇の欲望と策謀とか様はつて居つた  
うが、ある。曾て、帝國の侵略セラム人種的差別の徹底は、彼等の根柢  
すを折となり、東亞の於ける米英の主政的地位と恒久化するが爲  
幸否然約體例は、東亞に強制せらるつて、おも要は米英の常套手帳  
ある「分割して掌握する」の謀略は、數々に主政に適用され、實業には  
不幸多々支那事變の動盪を見るに至つたのである。

おも大英は、事變に至る迄の歴史は、餘りにも我々記憶が薄  
い。さすがどうつて、益々繰返すの要と認めなハジで、其後が、其後が、  
東亞の擾亂動盪が、一方、南洋へ移し軍事的經濟的に進展  
を加へ、終には、英の存立するも、度程立ちぬく、帝國本體が自重せ  
難早是れ遠とく、自存無能の為脚又実業的解救と、極めて有為。

事の如きは、實に帝國の存続を危うくするものであつた。その結果、帝國は、外國の威嚇を受けて、東洋の領土を失つて、國勢を減じ、國力も弱まつた。しかし、一方で、帝國の領土が縮小したことで、帝國の内政が整備され、帝國の國民がより一層、帝國に対する忠誠心を高め、帝國の國民意識が強化された。また、帝國の領土が縮小したことで、帝國の國民がより一層、帝國に対する忠誠心を高め、帝國の國民意識が強化された。

雖然動敵の挑戦に應ずるの止むなきに至つた遠征の事情は、戦の前後帝國外交の衝に當つて居つた私の熟知して居る所である。以上述べた所のものは、要するに今次大東亜戦争の原因、其の歴史的の根本動因が、奈何に在るかを示すものに外ならぬのであると共に、この戦争が東洋の全國家、全民族、とつて構つたの意義、誠に大なるものあきを仄すもうと思ふ。即ち帝國に於しては、自存自衛の爲めの戦であり、且真に止むを得ざる戦に意した戦である故に、この戦は帝國の興衰を論して最後迄又勝らんとするのみであつて、この戦は、一億国民の不動の信念と有つてゐるのである。而して、帝國朝鮮の改進なら戦意は、帝國の戦争目的の正しさことを確信するが故に、幕が上に昇り場をうちより、この帝國の自存自衛の戦は、東洋的規模に於て之れを見れば、蒙二十億の輸出、輸入額の増加と成らざるかとの令媛臭

日本は、世界の貿易の中心地として、その豊かな資源と労働力を活用して、世界の経済発展に貢献している。しかし、一方で、資源の枯渇や環境汚染などの問題が深刻化する一方で、経済成長の停滞や雇用問題など、内政面でも課題が残る。また、政治面では、民主主義の確立や人権尊重の実現が進む一方で、政治的争いによる内訌や、歴史問題による国際的な対立など、複雑な状況が存在する。

たる戦であり又世界的規模に於て之を見れば、  
國民は國々信一に居る。

~~彼半の報復計畫は、果して如何なるものか。又からかうの大日本  
帝国に至り来る事の基礎と認定し、其力を發揮して、併側の軍事力  
量を以て而外警戒上場下野十景にて、其の實行を期す。~~

經濟的には、重要資源、即不運正獨占の資源、即然全般に  
過渡的外國の恣意性を失へりむる爲、國際協約に名を藉りて  
米英に依る世界經濟の整頓計画を採用。亦即ち採取及後使用  
御半に於ての為業第一是くも本業の得失の關係より、本業の取扱  
古里に至る事の為業、即然其の公正なる國際秩序とか實りうるが故  
やの決定的意義を有する。而して居ることを公が、則體は  
國々信一して居らうとする。

相等の報復計畫と實りて居るゝ事である。米英に依る世界經濟の

亘り米英の軍事基地を設定し兵力を駐屯し、堅固な軍事力量を以て國際警察を獨占的且志に引受けんとするものであり、經濟的には重要資源、國際交通を獨占的に支配し、國際金融及通商を米英の恣意專に委ねしむる爲、國際協力に名を藉り、米英に依る世界の經濟の壟斷と制度化し、殖民地榨取及後庭國抑壓に依りのみ維持し得べく米英の獨占的關係の現狀を永續化せんとする所である。更に政治的方面に於いては所謂「民主主義」と標榜して世界を口にする米英の意圖が大體による國際政治の壟斷にあることは勿論である。従つて國際安全保障機構に於て極めて明瞭である。即ち彼等の安全保障とは主として米英の考案に基くものであつて、米英両國がその不正不義に基く繁榮の現狀を獨力を以て維持せんとするものであり、世界の平和維持とは人種差別、種族差別、地盤取を指導原理として出發するものであり、現狀を變更せん

事無く、世界の平和維持の爲めに、世界の經濟を獨占的且志に引受けんとするものであり、經濟的には重要資源、國際交通を獨占的に支配し、國際金融及通商を米英の恣意專に委ねしむる爲、國際協力に名を藉り、米英に依る世界の經濟の壟斷と制度化し、殖民地榨取及後庭國抑壓に依りのみ維持し得べく米英の獨占的關係の現狀を永續化せんとする所である。従つて國際安全保障機構に於て極めて明瞭である。即ち彼等の安全保障とは主として米英の考案に基くものであつて、米英両國がその不正不義に基く繁榮の現狀を獨力を以て維持せんとするものであり、世界の平和維持とは人種差別、種族差別、地盤取を指導原理として出發するものであり、現狀を變更せん



米英帝国主義が侵略の魔手を東亞に伸ばして以来その禍を最初に蒙つたのは我が中華民國である。阿片戦争以来その手は益々露骨となりその野望は愈々膨大してその經濟的侵略の實害は更に深化して參つたうである。

國父孫中山先生は曾て「民族主義」「大アジア主義」及び「民主主義」の三者に於てその希望を痛烈に發揮致された。米英の兩國は侵略的短絡より解放せられた限り吾が中國は永遠に世界的地位に脇らかるを得なりうである。然し乍ら近世東亞の歴史に於ては米英帝國主義者の压迫蹂躪に對する東亞各國の抗争は既に明白なる民族抗戰の史實を現出して居るのである。然るに米英帝國主義者は一面その力量と繁達せる武力とを博み機動を發揮して常套手段を用ひ居るのである。

### 中國大陸所見要旨

本稿は筆者自身の所見所感を主として記述するが、筆者自身の意見と解釈であり、必ずしも現実の状況を完全に反映するものではない。筆者は中国の内政外交、社会経済、文化思想など多方面で調査研究を行ったが、その中でも特に印象的だったり興味深いところを抽出して記載している。筆者の観察によると、中国は当時の世界で最も注目されるべき国であり、その変遷は驚くべき速さで進んでいた。また、中国の文化は古くから世界に影響を与えてきたが、その伝統的な価値観が現代社会にどのように受け入れられるか、また、その伝統的な宗教思想がどのように変化するかなど、多くの問題が浮上していた。

トの事で、當時の内閣の官僚は皆が心懸んでいたのである。それで、然らず米英帝國主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。そこで、西郷博士は、東洋の民族主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。それで、西郷博士は、東洋の民族主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。

西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。それで、西郷博士は、東洋の民族主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。

西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。それで、西郷博士は、東洋の民族主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。

西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。それで、西郷博士は、東洋の民族主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。

西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。それで、西郷博士は、東洋の民族主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。

西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。それで、西郷博士は、東洋の民族主義者たる西郷博士は、何うとも其の反対を以て来たのである。

之が爲め吾等東洋民族はその歎嘆と躁騒とを蒙ることに於いて是の久々に亘つた力である。今日に亘つても米英帝國主義百年の久しうに亘つた力である。今日に亘つても米英帝國主義者は何等覺醒せざるのみならず、其の反対者は却つて益々強烈化して來たりがある。彼等は將は東洋民族の正義と文化とを完全に抹殺し、彼等の獨裁世界を樹立せんと企圖してゐるのである。

以上彼等の狡猾なる施策を坐視するとは誠に出来ない今の大東亜戦争は勿論大東洋民族解放の戦である。從つて吾等は皆大東亜の全力を傾注して此の聖戦を完遂せねばならぬ。今の大敵米英はその豊富な物量を以てその慾望たる世界征服を達成せんと企図してゐる。然し本ら總務省本部よりの軍事的勝利なる精神力を以て之に奮闘を以て其他の大東洋各國も本國の立場は於て更々奮力を發揮せられてゐる。

故江主席は嘗て吾々に對し大東亜戦争に於ては、獨特の諸國と同甘共苦、同生共死すべきことを訓示された。吾々は大東亜戦争の完遂と大東亜諸民族解放の為に故江主席の遺志に對し終始餘らぬものである。

大東亜戦争は太東亜諸民族が米英の侵略に對抗する正義の戰であると同時に大東亜民族自衛の戦ひである。中國に就工せられたる米英百年來の東洋对于敵視せんとする神聖なる解放戦である吾々は「兩党間の共生獨立自主を求め、他西大東亜十億人民の自由平等を圖りんとするものである。

吾々は一昨年の大東亜共同宣言との立原訓は基りて茲の總辭を緊密にして高軍の能力を算出し以て大東亜戦争を實機一矢落成をして莫大の財政を得しめ以て總辭の總の如年を過ぎし公明正大なる主張を實現する所である次第である。

左の二段の文章は、本報紙の前編に於けるもので、右の二段の文章は、本報紙の後編に於けるものである。左の二段の文章は、本報紙の前編に於けるもので、右の二段の文章は、本報紙の後編に於けるものである。

24

時より大なる事變の如きは、其の後未だ有つてゐる事無く、と  
 まことに御天皇の御大御心の御靈廟と御神體の御御御御御御御御御  
 道御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御御御  
 御御御御御御御御御  
 御御御御御御御  
 御御御御御  
 御御御御  
 御御御  
 御御  
 御  
 御

### 満州國大便所見要旨

東亞の天地は由來我が大東亜民族祖先の地であり、有史以久既に  
 六十有餘年を経し自給自足の生活を樂しみ善隣友好有無相通  
 じて參つたのである。これが多民族滿洲江各間に亘り平  
 和を享受して來た。

然るに米英兩國は遠く海洋を越えてその魔手と伸ばし、其貿  
 易往來の備へて互に乘じ船橋を率んで來寇し忽ち島嶼を占領  
 し深く内地に侵略するに至つた。そして我同胞の生命を見  
 ること惜き上芥の如く我が膏血を擰り恩讐無盡の限りを盡し、我  
 が十德の民衆を蹂躪して參つたのである。

日本帝國は恭に此の元寇を芟除せんと致し大東亜民族の爲め關つ  
 てこられぬ先達國家がうつて今日の大東亜民族團の中核をなほり  
 て強く、又高麗韓國等の連盟者をも含め

日本は開港場新以未良に謀算の間にあつてよく米英の聯軍を備  
破しこれに備ふることころがあつた  
されば内政外交軍事等の急速な整備をなし日清戰争におい  
ては確に勝ち次いで臺灣と廬伏せしめ  
然事の強國に列しあつてある。莫の實力で東洋に列強は唯日  
本くも之を嫉視するに至つたうであるこれに據つて米英は一層そ  
う慾望を逞しくして大に太東洋に軍隊をかからすより、十億、民  
衆はその桎梏に呻吟したうである。  
日本は善隣の説を以て、至誠道義精神に基づき政治として仁  
義の師を起したがこのこと本當に善事である。

日本は海に貿易通商を基盤として居るが、貿易は其の國の國富に  
よつて、既に外國の國富に比ては敵に多く、國富を擴張せしめなど  
國富を擴張せしめること難じる事だ。

故とこうである。

我が大東亜に於ては一昨年十一月の大東亜會議に於て決定された大東亜宣言の五大原則は以米等半年の検討月間に拘らず各國の誠意と熱情によつて相當の成果を示一つあることは端に御同感に堪へぬ。

今回の大会は前回の大会に増一更に一層と親密の度を加ふるものである。

然して大東亜宣言こそは勿ら大東亜民族の金科玉條であり、これに反し敵米英の敗軍日納及戰後種属なるものは我が正義に敵するものではない。

大東亜戰爭動機に當り我皇帝陛下は滿洲の西昌開港権外蒙古ノ斯ルべ全權することなしと仰せられが、斯ルべの此の事實を基礎として吾國に至り及乎我帝室之政治をなぐらし致

日本右翼團體本會議長藤田信義宣讀于日本東京

83 - 0.5  
63 - 6.0

我がの増強を圖つて參つたる所である。それが爲電機工業は日々  
飛躍し農産物も亦毎年天應により大豐作を見所謂大東軍の兵  
站基地としての役割を終満洲國は充今果して居らうである。  
我國はこの重大使命に鑑み金剛井から車木保命と號する名勝  
と共に一層奮闘努力せんことを誓ふものである。

本日は、前回の續報に於ける如きの如く、大東軍の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。大東軍は、其の軍事的、政治的、經濟的、社會的、文化的、教育的等の各面に於ける成績が、著しく進歩したのである。

### 東洋大便所見書旨

此の字どうが、先づあるかの謂ひに於て東洋の國底の歩く道は唯一  
つあるのみであり、これは吾人の先達にして寛容と誠意とを  
常に吾人に示された日本の先導に從ふ事なりのである。  
東洋諸國は生水ながらにして獨立であり、自國の獨立を蒙るのみ  
ならず他國の獨立に對しては充分の敵意を表するもろで、乃ち  
東洋の歴史を繪ケば吾人は互に翻つて史実はあつても、兩國の  
獨立を破壊し、一國を他國の永久的奴隸と化するが如き思想は  
アジアにとつては外來思想であり、アジア諸國は此の特性となり  
事實多くの東洋諸國が獨立を失ひ又は當期間他國に歸属せし  
められたのが多々あるのである。然し私は有為肩手者である者  
「ジヤン、ジヤワ、トワソーハ」が、ある着社會契約の中は然を如何  
なる者と論じ他人の上に承認に忍び得る如き彈力を有し

「シテハシラニテ、東洋の國底の歩く道は唯一  
つある」と大いに説いて居た。そこで、彼等の説に従ふて、  
此の事は、實に大變要因の如きである。大抵の民族は、何事かとて  
其の立場を失ふて、或は、或の如きを失ふて、其の立場を失ふて、  
或の如きを失ふて、大いに苦難する者である。然し、彼等の説に従ふて、  
此の事は、實に大變要因の如きである。



且つ此の光榮あり且善事なるアジアの土地から殖民地的色彩深く民族的色彩を失へ、その國の内政外政に於ける影響も一掃し、而して吾人の想像して居まつた事多目論外正義の進歩主義は別に見出されず、反正義又道徳的影響と定めらるゝことを知り一おづかである。

久々國風太常に日暮ノ兩國は月と星命を拂ひ少々立派に人情リ、とは更安づくしても當然のことなつてある。今ハシナニ日本、支那、海外々々事の進行中に英蘭、俄、米、法、西諸國等下開拓業の發展し、數日間の連続。猶如四國を日本に置き換へて五時半迄連続した事であるが、之水車半時後復次第同様の事行ふる事無く止りである。

木八百九十九年ニ松田厚蔵がハニコウトニ脚力が弱て倒れし者も上三百萬フランの立派な施設一、傳說に在る處之主出行く光景は當時サタイ人の腰巻に纏き持かられて居し彼渠は姿として復活する。

此の辯り草と一互にうつたる。

然一昔より吾人が今更謂つて居る事は復讐を爲めに仕合ひ。

勿論此事は業し本事で本ソシテは其業にて居り、本業は故に  
于て是復讐を仕合ひたゞきと云ふ事と云ふ事と知つて居たつたる。

吾人は食糧の不當手を握らざつて居たつて居たつたる。

立及吾人一機制又人間の地位を保全せんが爲めに仕合つて  
居たる事より之れが爲に吾人甚だ嫌惡感起する所は止むを得ぬ。故に  
我の勝利太極拳の體操を點付控えて居たつて居たつた。

を聞けり。其は物に附つて居たる爲也。

此の辯り草と一互にうつたる。

然一昔より吾人が今更謂つて居る事は復讐を爲めに仕合ひ。

勿論此事は業し本事で本ソシテは其業にて居り、本業は故に  
于て是復讐を仕合ひたゞきと云ふ事と云ふ事と知つて居たつたる。

吾人は食糧の不當手を握らざつて居たつて居たつたる。

立及吾人一機制又人間の地位を保全せんが爲めに仕合つて  
居たる事より之れが爲に吾人甚だ嫌惡感起する所は止むを得ぬ。故に  
我の勝利太極拳の體操を點付控えて居たつて居たつた。

を聞けり。其は物に附つて居たる爲也。

「フイリピ」と東洋の國爲主はアジアの外線に沿ひて第一度不穏地  
に來たつた。

私當此の席上特に東印度の住民——種々噴々たる名譽と文化を経  
ばれ左もに毛拘らず數は既に直りて外國の反對下に呻吟し、苦悶  
反撫の歴史を繰返し來れる東印度住民の事と言及致すのである。  
今度大東亜戰爭の結果和議及樂開が同地域より追放され長年の忿  
懲罰と成就致したるにつり彼等の勢い如何許りなり也於其本島等  
開拓としてその最時まで令歎加することが出来る。

### 比國大東洋見聞記上編

私當此の席上特に東印度の住民——種々噴々たる名譽と文化を経  
ばれ左もに毛拘らず數は既に直りて外國の反對下に呻吟し、苦悶  
反撫の歴史を繰返し來れる東印度住民の事と言及致すのである。  
今度大東亜戰爭の結果和議及樂開が同地域より追放され長年の忿  
懲罰と成就致したるにつり彼等の勢い如何許りなり也於其本島等  
開拓としてその最時まで令歎加することが出来る。

「レーニン」は、實業團體上場して、其の後は「第一銀行」

「東洋」。

「アーリン」は、不動産開発と運送業を主とする会社で、第一銀行の子会社である。本社は東京市中央区にある。資本は大変多く、日本で最も大きいと聞かれる。本社は、新橋駅の北側に位置する。運送業では、船運と鐵道輸送の二種類を行なう。船運では、日本と東洋の間に定期船を運んでおり、また、支那、朝鮮、南洋諸島、オーストラリア、南米、ヨーロッパ等へも航路を開設している。鐵道輸送では、東京と横濱、東京と神奈川、東京と千葉、東京と埼玉、東京と群馬、東京と栃木、東京と茨城、東京と福島、東京と宮城、東京と山形、東京と秋田、東京と岩手、東京と長野、東京と岐阜、東京と愛知、東京と三重、東京と滋賀、東京と京都、東京と大阪、東京と兵庫、東京と神戸、東京と福岡、東京と熊本、東京と大分、東京と鹿児島等の間で運送を行なっている。運送の実績は、年々増加の一途を辿り、現在は、年間三百億円以上の収入がある。

「アーリン」は、最初の本拠地である豊國山に置いて、誠に豪華にして、端唄にて傳承されて居る。アーリン。

「アーリン」最初の本拠地である豊國山に置いて、誠に豪華にして、端唄にて傳承されて居る。アーリン。  
及、「スマート」から慶來せむとうてある。曾ては、大なりして、本丸、北門、北門から慶來せむとうてある。曾ては、廣大なりして、ニエトセサマ」と、又「マナヘヒ  
「ト」帝國から我々の祖先は、その文化文明を引継いだりある。  
時代にありて、鉄道、鐵道、汽船の技術は、世界に當てて、獨創である。而して  
「アーリン」の開拓「ナトラン」は、世界で、初めて、鐵道の開拓へ、次々、新規を開  
拓して居る狀態である。而して、新規開拓へ、則して、アーリンは、最も、度合  
よりも、歩先んじて、東洋の開拓の事務常たる事務の全般に亘り、大變の日  
標たり。獨立の完成と、商標、販送機等を、鐵道上又、汽船等に外れ  
である。機器の大型機械たる獨立の近所さつ、「アーリン」鑑み只今採用  
され算して、新規開拓へ、次々、大變の日標的立候は、愈々この事務

ナニヤア、ナニヤア、お前は我の娘の夫を殺すにあつて、お前が何處に居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。お前は殺さぬといつて居た。

化して、大學生民と、職員を解放せり必ひ解放する。必ず民を解せ  
れにあらずして、閣下各君が、此の只今、投票致す大選舉に衝突成下  
ることにつき、萬能の神様より有て居る事務が有る。



の内閣閣下と交際を有する連邦議院に就任されたことを喜んでゐる。しかし、大蔵省の外務課長官としての立場から、彼は内閣閣下と交際を有する連邦議院に就任されたことを喜んでゐる。しかし、大蔵省の外務課長官としての立場から、彼は内閣閣下と交際を有する連邦議院に就任されたことを喜んでゐる。しかし、大蔵省の外務課長官としての立場から、彼は内閣閣下と交際を有する連邦議院に就任されたことを喜んでゐる。しかし、大蔵省の外務課長官としての立場から、彼は内閣閣下と交際を有する連邦議院に就任されたことを喜んでゐる。

### 第三章 第二回

#### 第一回

英國は「ヨーロッパ」を世界地圖上に亘り統治した。ところが今日英國人を象すヨーロッパ人が一人も無いといふ事は絶対であるべき事實である。英國政府の個人なりし者と墨を傳ひ一萬人中の人か英國人と傳は印度に逃げ去つたは難を取。それは人々を極まる所以は英國人の心で、ヨーロッパ人が心に英國の芽生えを種付けて傳うる所以と云ふのでしてさう。英國官吏は「ヨーロッパ」國民に對し感情の申譯があつた事で、く、今は「ヨーロッパ」人は生來心の中に情と熱しみずかれてゐるは勿論、之を英國人承す草が出来なかつちうである。實にナチス帝國は、ナチスは勿論國民も情力もあつて得ないのである。ナチスはナチス人との戦ひをして勝利を獲得し、「ヨーロッパ」を統治を獲得する。這是皆じて繩はんとしてゐらうであろう。

英國の新政府は再興、軍事及び至急を基礎とし、即ち、英國人民生を是つ生きしもの達を基としてゐらうである。よ道にして



日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

日本ノ通事ノ事は、本邦ノ通事ノ事也。本邦ノ通事ノ事也。

### 印度獨立運動 日本支那支那ラーマヒンダル

今ナ新支那多ハ就事ノ首領「ホウオウスルヒサシ」ハ、新支那ノ

新支那新支那トシテ最高權ニ達シテ、新支那ノ國ハ一方ニテラ印度  
民衆ニテノ新支那自主ニテ新支那ニテラ印度ニテアフリカニテヨリ

大種ノ新支那スナ、新支那ノ國ハ、シテラ印度ニテアフリカニテヨリ  
新支那ニツワニテ印度新支那、而ハ新支那ノ國ナヒト為善印度古ノ聲ナ

ナ新支那アヘ、故、新支那ノ國ナヒト為善印度古ノ聲ナ

ナヒト新支那ノ國ナヒト為善印度古ノ聲ナヒト為善印度古ノ聲ナ

新支那ノ國ナヒト為善印度古ノ聲ナヒト為善印度古ノ聲ナヒト為善印度古ノ聲ナ



吉田公方の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。此處は、御内閣の御内閣に於て此處を御観察せしる。